

2020.02.07

第2回 大阪城東部地区まちづくり検討会

資料2

参考事例編

< 目次 >

- (1) 大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワー
- (2) 教育文化センター跡地活用事業 (横浜市)
- (3) 中野四季の都市 (まち)
- (4) コーネル・テック (ニューヨーク市)
- (5) 柏の葉アーバンデザインセンター (千葉県柏市)
- (6) 柏の葉スマートシティ (千葉県柏市)
- (7) ハドソンヤード (ニューヨーク市)
- (8) 品川シーズンテラス
- (9) DOKK1 (デンマーク オーフス市)
- (10) スマートシティ会津若松
- (11) WISE Living Lab さんかくBASE (横浜市)
- (12) 鎌倉リビング・ラボ
- (13) 信州リビング・ラボ

参考事例

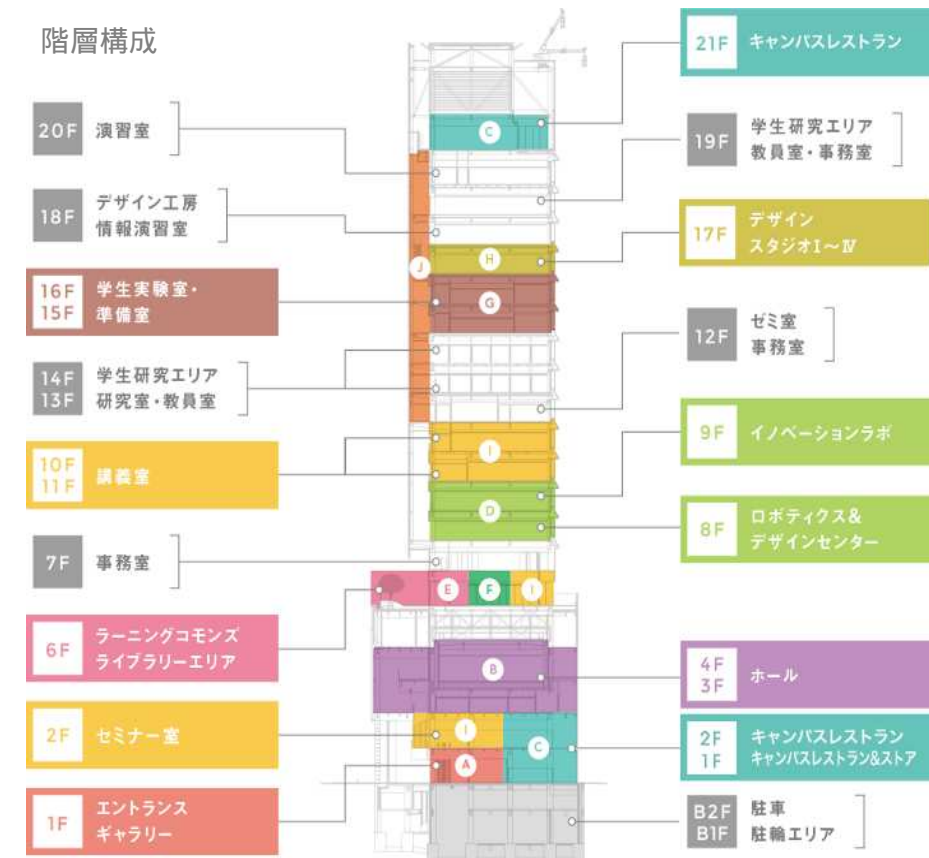
キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートビル】 【スマートモビリティ】 【スマートエンタテインメント】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビング・ラボ】 【エリネ】

(1) 大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワー ～地域に開かれた都市型キャンパスタワー～

- ・所在地：大阪市北区茶屋町1番45号（阪急梅田駅徒歩3分）
- ・設立：2017年4月開校（'14年3月着工/'16年10月竣工）
- ・階数：地上21階、地下2階（高さ 125m）
- ・面積：敷地：約4,650㎡・延床：31,289.88㎡
- ・機能：
 - 1階～ 4階：地域開放型にぎわいエリア（ホール、レストランなど）
 - 6階～ 9階：イノベーションエリア
 - 10階～20階：ロボティクス&デザイン工学部の学びの拠点
- ・参考：
 - ・2017年度の志願者数は前年度の1.5倍に増加。新学部創設で定員が増えたため、単純比較はできないが、梅田キャンパスの効果が大きいとみられている。
 - ・産学連携型クラブ活動「RDクラブ」を設置（大商と密に連携。2019年度は9社の企業が参画）



写真の出展：大阪工業大学 HP



図の出展：大阪工業大学 HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネジー】 【スマートモビリティ】 【スマートエッジング】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リノベーション】 【IT/ITx】

(2) 教育文化センター跡地活用事業(横浜市) ~市民の知の交流拠点「オープンレッジポート」の創設~

【以下は事業予定者決定に関する横浜市発表の内容です】

- ・所在地：横浜市中区万代町1-1-11ほか（JR関内駅前）
- ・事業者：学校法人 関東学院
- ・開校：2022年4月予定（'14年3月着工/'16年10月竣工）
- ・階数：地上17階、地下2階（高さ74.9m）
- ・面積：敷地：約2,647㎡・延床：25,221㎡
- ・機能：B1階～1階：ブックカフェ、スポーツ施設等
 2階～3階：ホール、ギャラリー
 4階：マッチングオフィス、コワーク
 5階：デジタル図書館
 6階～17階：大学
 B1階～5階は一般利用可能(6階以上も一部利用可能)



事業コンセプト概要：

大学、企業、市民、起業家等、国内外の多様な主体が集うインキュベーション拠点イノベーションを誘発するために、大学の多様な機能が提供される。大学がラウンドテーブルの機能を果たしながら、大学・企業・市民・起業家等の国内外の様々な主体が集い、交流するためのプラットフォームが形成されることにより、関内・関外地区に新たなインキュベーション拠点が創出される。

様々な分野での産学連携、2,500名を超える学生の学ぶキャンパス

当該大学では様々な分野における国際的な教育・研究のリソースを有しており、企業ニーズとマッチングさせるためのマッチングオフィスを設置するなど、関内・関外地区で研究・教育分野での多様な産学連携を実現する。留学生や海外研究者と交流できるスペースも設置される。2,500名を超える学生が学ぶキャンパスが開校され、学生による周辺地域の回遊や地域が実施する事業への参画等により、新たな賑わいが形成される。

市民に開放された「知の交流」のための多様なスペース

企業や市民が活動可能なコワーキングスペース、多数の蔵書にアクセスできるデジタル図書室、サンクンガーデンに設置されるブックカフェ、ホール・ギャラリー等、市民の知的・文化的活動を支援するための多様なスペースが用意される。生涯学習講座などを積極的に開講し、市民の知的活動を支援するとともに、スポーツ施設も設置し、市民の健康増進にも貢献する。



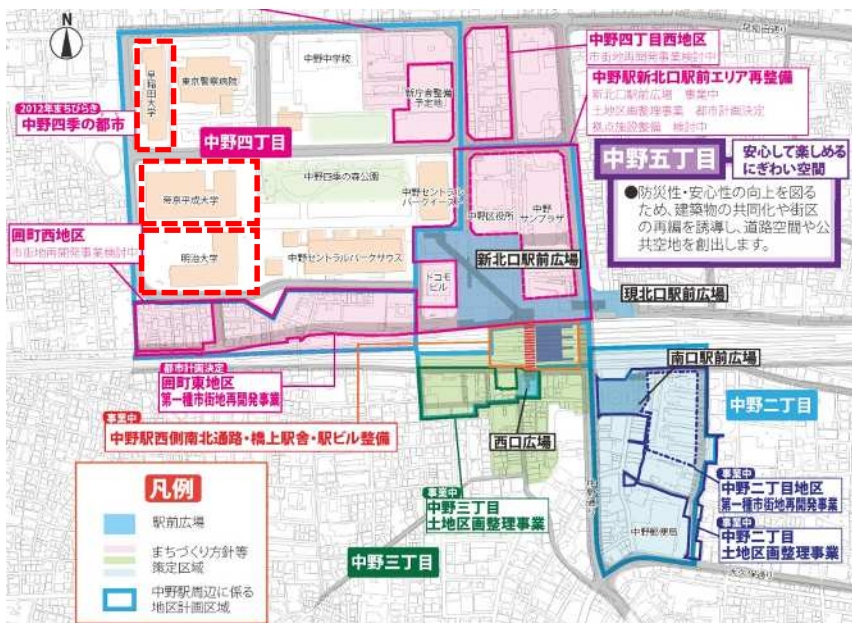
図の出版：横浜市 HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
スマートシティ : 【スマートビル】 【スマートビルリティ】 【スマートエッジ】
クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+リカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リノベーション】 【エリア】

(3) 中野四季の都市(まち) ～公有低未利用地における3つの大学誘致～

- 概要:
 - 警察大学校跡地等(約16.8ha)において、大学、オフィス、病院、公園等の多様な都市機能を整備
 - 企業で働く人や学生の増加、公園の利用者の増加等により、中野駅周辺を訪れる人は、開発前と比べて約2万人増加(2019年10月資料より)
- 所在地: 東京都中野区・中野四丁目地区(JR中野駅北西)
- 機能:
 - 大学(早稲田大学 中野国際コミュニティプラザ)
 - 大学(明治大学 中野キャンパス)
 - 大学(帝京平成大学 中野キャンパス)
 - 大規模オフィス、商業、住宅、病院
 - 公園(中野四季の森公園 1.5ha)



図の出具: 中野区 HP

名称等	概要
早稲田大学中野国際コミュニティプラザ (敷地面積: 7,710㎡) (学生寮: 約900名)	・日本人学生と留学生が混在する『学生寮』 ・地域に生涯学習の場づくりを提供する『教育施設』 地域開放講座を開講
明治大学キャンパス (敷地面積: 16,144㎡) (開学時学生数見込: 2,500人)	[学部]国際日本学部、総合数理学部 [大学院]国際日本学研究科、先端数理、科学研究科等 地域連携講座を開講
帝京平成大学キャンパス (敷地面積: 16,018㎡) (開学時学生数見込: 5,500人)	[学部]薬学部、現代ライフ学部、ヒューマンケア学部 [大学院]薬学研究科、環境情報学研究科 中野区民講座を開講
その他(業務、公園、病院)	・業務(400席のホールも確保) ・公園: 防災公園 ・病院: 415床(災害拠点病院)

早稲田大学国際コミュニティプラザ

【施設概要】

- 用途: 寄宿舎、大学店舗
- 延床: 30,332.21㎡
- 早稲田大学全体では約8,000人の留学生が存在

【学生寮】

- 日本人学生と留学生とが混在する約900名規模
- 2階には独自の寮プログラムが実施される多目的教室、音楽室やフィットネスルーム、学生ラウンジ、大浴室など、寮生同士が交流を図ることのできる場が確保されている

【教育施設】

- 大学の教育研究機能を生かし地域社会に開かれた生涯学習の場を確保



階	概要
11階	女子フロア
10階	
9階	
8階	男子フロア
7階	
6階	
5階	
4階	共用施設(フィットネスルーム、音楽室、大浴室)
3階	
2階	学生ラウンジ
1階	寮室(男子) ●寮運営事務室 ●会議室 ●管理人室など
B1階	生理学習用施設 ●社会連携施設 ●店舗 ●緊急エントランスなど
B2階	駐車場・駐輪場(一般用) ●駐輪場(寮生用) ●機械室 ●防災備蓄倉庫

写真・図の出具: 早稲田大学 HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネルギー】 【スマートビルリティ】 【スマートエッジング】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【イリマネ】

(4) コーネル・テック (ニューヨーク市) ~ニューヨーク版シリコン・バレーの拠点形成~

- 概要 :
 - 新産業創造及び学術機関の成長促進策の一環として大学誘致を推進した事例
 - シリコンバレーを追い抜くことを目標とし、世界の大学の提案コンペによる競争入札を実施。コーネル大学が優先権を獲得。
- 所在地 : ニューヨーク ルーズベルト島
- 開校 : 2017年8月 (全体が完成するのは2034年の予定)
- 面積 : 敷地 : 約 5 ha (総工費20億ドルを想定)
- 施設 :
 - ブルームバーグセンター (主に教室)
 - タタイノベーションセンター (産学共同研究拠点)
 - ザ・ハウス (住居用の建物)
 - ホテル、教育センター (建設中)



図・写真の出席 : コーネルテック HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートビル】 【スマートビルリティ】 【スマートエッジング】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【ビルディング】 【IT/ITx】

(5) 柏の葉アーバンデザインセンター (千葉県柏市) ~大学が核となり街の成長・課題解決を牽引~






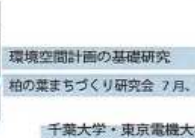




- 概要:
 - 2006年11月、公民学連携型まちづくりの拠点として柏の葉キャンパス駅西口前に開設し、計画段階からまちづくりを牽引
 - 2010年09月、柏の葉キャンパス駅東口駅前に移転2014年04月、柏の葉キャンパス駅西口「東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライトの1階」に移転を通じて、スマートシティ化など当初の構想の実現・課題解決の取組みを推進している。

公共 × 民間 × 大学

柏市
千葉県
柏市まちづくり公社
 柏商工会議所
田中地域ふるさと協議会
三井不動産
首都圏新都市鉄道
 東京大学
千葉大学



開設から5年間の歩み (初動期のまちの牽引実績)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
取組み	4月: 「大学と地域の連携交流会」にて東京大学北沢教授がUDCK設置提言 10月: 組織の枠組み決定 11月: UDCKオープン	 初代 UDCK	 UDCKの展開 4月: UDCY設立 11月: UDCKo設立 8月: UDCT設立	 2代目 UDCK	8月: 初代施設閉鎖 9月: UDCK現位置に移転	 11月: UDCKs周年	
地域構想計画・推進	国際キャンパス構想基礎調査	国際キャンパス構想策定調査	3月: 国際キャンパス構想策定 2008年度: 7部会での検討 ①田園都市部会 ②環境建築部会 ③地域教育部会 ④自転車部会 ⑤地域大学連携部会 ⑥空間デザイン部会1 ⑦空間デザイン部会2	2009年度: 10部会での検討 ①地域教育(小学校)部会 ②環境都市部会 ③ITS部会 ④自転車部会 ⑤エリアマネジメント部会 ⑥田園都市部会 ⑦PLS展開部会 ⑧空間デザイン部会 ⑨地域大学連携部会 ⑩地域ICT部会	2010年度: 6部会での検討 ①地域教育部会 ②田園都市部会 ③モビリティ部会 ④空間デザイン部会 ⑤エリアマネジメント部会 ⑥UDCK将来部会	2011年度: 7部会での検討 ①地域教育部会 ②田園都市部会 ③モビリティ部会 ④空間デザイン部会 ⑤エリアマネジメント部会 ⑥国際教育部会 ⑦UDCK将来部会	
研究提案	都市環境デザインスタジオ 2006後期課題: 柏の葉を拓く130の提案	2007前期課題: 新しい公共空間を構想する 2007後期課題: 新しい田園都市を構想する	建築環境デザインスタジオ アーバンデザインセンター研究	2009後期課題: 新しい田園都市をデザインする	2010後期課題: 都市環境の再構築: 地域とともに考えるまちのリノベーション	2011後期課題: 成長から成熟へのシナリオと郊外都市デザイン	
	 都市環境デザインスタジオ	 環境空間計画の基礎研究 柏の葉まちづくり研究会 7月、12月 千葉大学・東京電機大学演習カレッジリンクシニア住宅	 第1回UDCK会議 柏・流山地域国際学術都市づくり展	 第1回UDCK会議 柏の葉コミュニティグリッド研究 3月: 柏の葉コミュニティフォーラム「持続可能な地域運営の仕組みを考える」	 第1回UDCK会議 未来の住まいフォーラム 7月、2月 モバイル空間統計研究	 第1回UDCK会議 6月: 予防医学プロジェクト 2月: UDCK教育フォーラム「国際キャンパスタウン構想の実現に向けて」 9月: 防災シンポジウム「柏の葉の都市防災とこれからのまちづくりを考える」	

写真・図の出席: 柏の葉アーバンデザインセンター HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネルギー】 【スマートビルリティ】 【スマートエッジ】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+リカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リノベーション】 【エリカ】

(6) 柏の葉スマートシティ (千葉県柏市) ~公民学連携のオープンな解決のステージづくり~

- ・所在地：柏の葉キャンパス駅周辺エリア (千葉県柏市)
- ・目的：環境共生都市、新産業創造都市、健康長寿都市の3つのテーマに関し、その最適解を求め「世界の未来像」を具現化していくことを目的としている



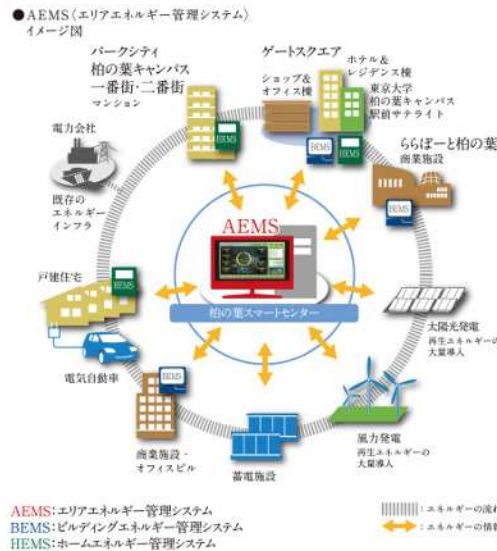
『新産業創造都市』の取組み

- ・ K I L (柏の葉オープンイノベーションポッド)
- ・ T Xアントレプレナーパートナーズ (大学、研究機関、行政、民間企業、個人の専門家が連携する日本有数のベンチャー支援組織)
- ・ 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト (東大の研究資産と企業を結びつけ、新しい事業や研究領域の開拓を進める施設)
- ・ 環境問題、エネルギー問題、予防医学・健康を研究する研究施設
- ・ アジアの若い起業家が一堂に会する、日本発の国際的なビジネスコンテスト



『環境共生都市』の取組み

- ・ A E M S (エリアエネルギー管理システム)
- ・ スマートグリッド (分散電源エネルギーを街区間で相互に融通)
- ・ 災害時エネルギーシステム (災害時に効果的にエリアエネルギー管理)
- ・ H E M S (ホームエネルギー管理システム)
- ・ CO₂削減のロードマップ策定
- ・ サステナブルデザイン
- ・ 再生可能エネルギーの活用
- ・ 千葉大学発「植物工場」



『健康長寿都市』の取組み

- ・ 街のすこやかステーション (予防医療施設、無料の健康増進サービス、健康サポートを提供)
- ・ 柏の葉スマートヘルスプロジェクト (デジタル健康機器と健康データ分析システムの連携 PCやスマホで各自の健康状態が見える化)
- ・ 健康増進プログラム (オリジナルの健康増進体操)
- ・ 柏の葉エリア限定求人サイト (働き活きと暮らせるサービス)
- ・ 学術機関や多彩な市民活動を通じて、超高齢化社会に対応したまちづくりを推進



リストバンド型ライフレコーダー (健康分析システムに連携)

柏の葉キャンパスシティオリジナルの「はっばっば体操」

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートビル】 【スマートビルティ】 【スマートエッジ】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【エコマ

(補足) 柏の葉ゲートスクエア (柏の葉ではスマートシティの主要機能を「柏の葉ゲートスクエア」に集約して配置)



三井ガーデンホテル柏の葉
研究者や出張者も利用する宿泊施設
(ホテル&レジデンス棟/1F・3~7F)



柏の葉スマートセンター
ICTを活用したAEMSの運用拠点
(ホテル&レジデンス棟/2F)



柏の葉カンファレンスセンター
ホール(400名収容)+大小会議室(6室)
(ホテル&レジデンス棟/2F)



柏の葉インターナショナルビレッジ
国際交流住宅(留学生・研究者等入居)
(ホテル&レジデンス棟/14F)



東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト
新たな事業・研究領域の開拓推進施設
(駅北西街区内の南西角)



エネルギー棟
電力融通装置、太陽光発電や蓄電池等
(ショップ&オフィス棟の西側)



街のすこやかステーション
予防医療棟・トピア(10店舗以上入居)
(ショップ&オフィス棟/3F)



柏の葉オープンバーションラボ(KOIL)
ワーク・シェア工房・カフェ・スタジオ等
(ショップ&オフィス棟/4~6F)



柏の葉アーバンデザインセンター
公民学が連携した街づくり中核拠点
(東大柏の葉キャンパス駅前サテライト/1F)

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネルギー】 【スマートビル】 【スマートイノベーション】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【ビルディング】 【IT/ITx】

(補足) 国土交通省スマートシティモデル事業 (2019年5月、柏の葉が先行5ヵ所外15事業の一つに選定された)

柏の葉スマートシティコンソーシアム
 【地方公共団体: 柏市 民間事業者等代表: 三井不動産株式会社】

- 大学、病院等の施設が駅から2km圏に分散立地しており、区画整理事業の進行に伴う土地利用の更なる促進に向け、施設間のつながり強化、新産業の集積促進、環境負荷の低減、将来も健康に暮らせる居住環境形成が課題。
- 「エネルギー」、「モビリティ」、「パブリックスペース」、「ウェルネス」をキーワードに、データプラットフォームと公・民・学連携のまちづくり体制とを活かし、高密複合空間における環境負荷を抑えたスマートなコンパクトシティライフの具現化を図る。

◆対象区域



◆事業実施体制

<p>柏の葉スマートシティコンソーシアム</p> <p>幹事機関・事務局: UDCK / 三井不動産㈱ / 柏市</p> <p>データプラットフォーム構築・運営 協力機関</p> <p>民間型: ㈱日立製作所 / 日本ユニシス㈱ / 凸版印刷㈱ 公共型: 柏市 / 日本電気㈱</p> <p>モデル事業分野別実施体制</p> <p>エネルギー: ㈱日立製作所 / 三井不動産㈱ モビリティ: 柏 ITS 推進協議会 / 東京大学モビリティイノベーション連携研究機構 / パシフィックコンサルタンツ㈱ / 首都圏新都市鉄道㈱ / ㈱長大 / ㈱アイ・トランス・ポータル パブリックスペース: (一社)UDCKタウンマネジメント / 産業技術総合研究所 / ㈱国土交通・道路データサービス / 川崎地質㈱ / ㈱奥村組 ウェルネス: 柏市 / 国立がん研究センター東病院 / 三井不動産㈱ / 産業技術総合研究所</p> <p>先端ソリューションを持つベンチャー企業 (新規参入含む)</p>

◆新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

<p>AEMSの進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・域内施設のエネルギー関連データプラットフォーム構築 ・データ活用予測による電力融通効率化 <p>＜エネルギー＞</p>	<p>拠点施設間のアクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転による事業用自動車(緑ナンバー)の実証運行 ・駅周辺交通の可視化・モニタリング <p>＜モビリティ＞</p>	<p>公共空間の整備・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人流解析・環境センシングに基づく開発計画、空間デザイン ・AI解析による道路等の予防保全型維持管理 <p>＜パブリックスペース＞</p>	<p>健康支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康拠点でのデータ収集、健康サービス提供 ・医療機関における人流データを活用した患者の待ち時間軽減 <p>＜ウェルネス＞</p>
---	---	---	---

データプラットフォーム

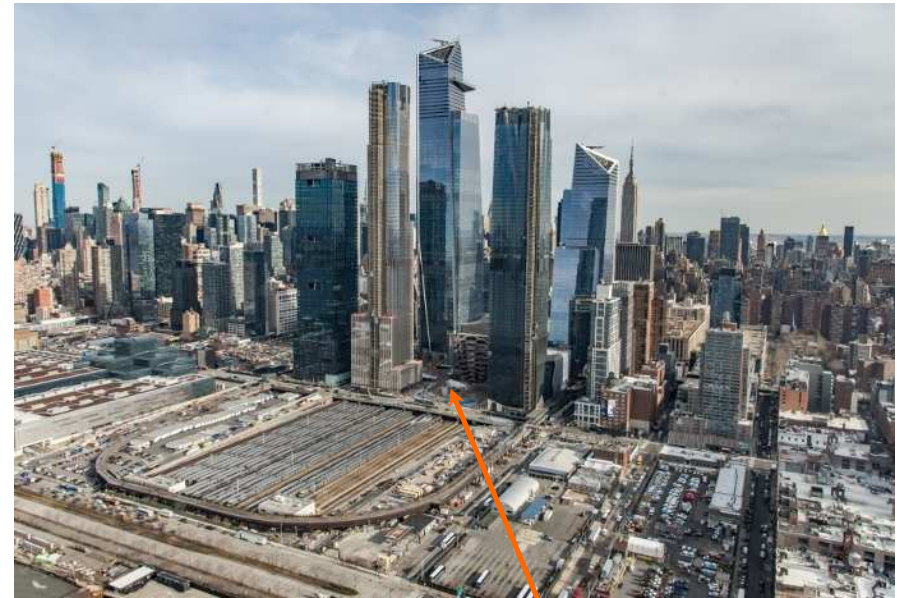
<p>民間型プラットフォーム</p> <p>個人情報に配慮、情報銀行等の仕組み活用検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供者が開示相手や対象情報範囲を選択でき、個人情報を守られる仕組み。 ・既存DBを連携できる、安価でセキュアな分散型DB。 ・安全な情報取引とマテリアリティを試算しリスクを評価。 	<p>公共型プラットフォーム</p> <p>オープンソースの都市OSのFIWARE等活用検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を含まない、もしくは匿名加工情報DB。 ・データ開示により、市民の利便性向上・街づくりの進化に寄与。 ・国際標準 (Creative Commons) に沿った知的財産権の一部併用化 (オープン化)
---	--

◆2019年度の主な取組

- ・柏の葉キャンパス駅～東大柏キャンパス間のシャトルバス(事業用自動車)の一部で自動運転を導入
- ・小型路面下探査装置の開発及びAI解析の実証実験

(7) ハドソンヤード (ニューヨーク市)
 ~操車場上部を活用した立体的な大規模再開発~

- ・概要 : ・ニューヨーク州交通局 (MTA) が保有する操車場の上部に人工地盤を設け、民間事業者がその上部を開発している立体的な大規模再開発
- ・操車場の上部は MTAが保有しており、その空中権を民間に 99年間のリースで貸し付けている。
- ・ハドソンヤード特別目的地区内では、容積の売買が可能 (ゾーニングにより定められた容積まで)
- ・労働者・住民・訪問者等の人の流れ、大気の状態、電力需要、気温等をビッグデータ化し、AIを用いて最適化を図る
- ・所在地 : ニューヨーク マンハッタン ミッドウエスト
- ・面積 : 敷地 : 約11ha
- ・施設 : 5棟の超高層オフィス、100を超えるショップ・レストラン、約4000戸の住宅、ユニークな文化施設、約6haにおよぶ公共のオープンスペース、公立学校、高級ホテルが計画されている。



図・写真の出版 : ハドソンヤード (プレスキット)

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートネットワーク】 【スマートビルリティ】 【スマートエッジング】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【エリカ】

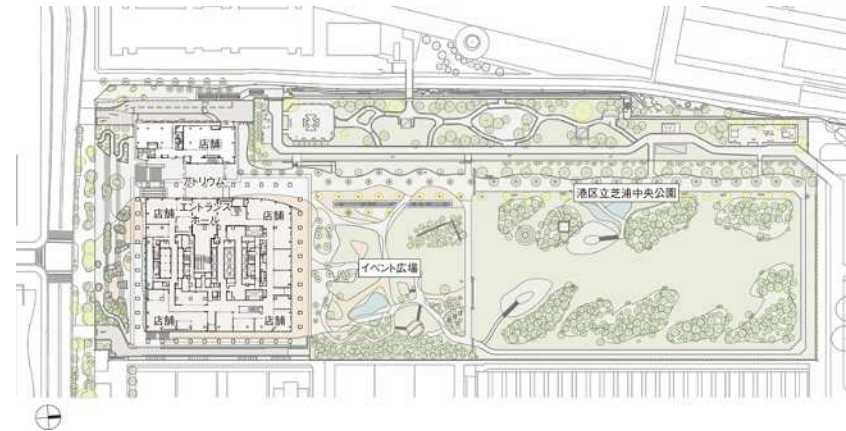
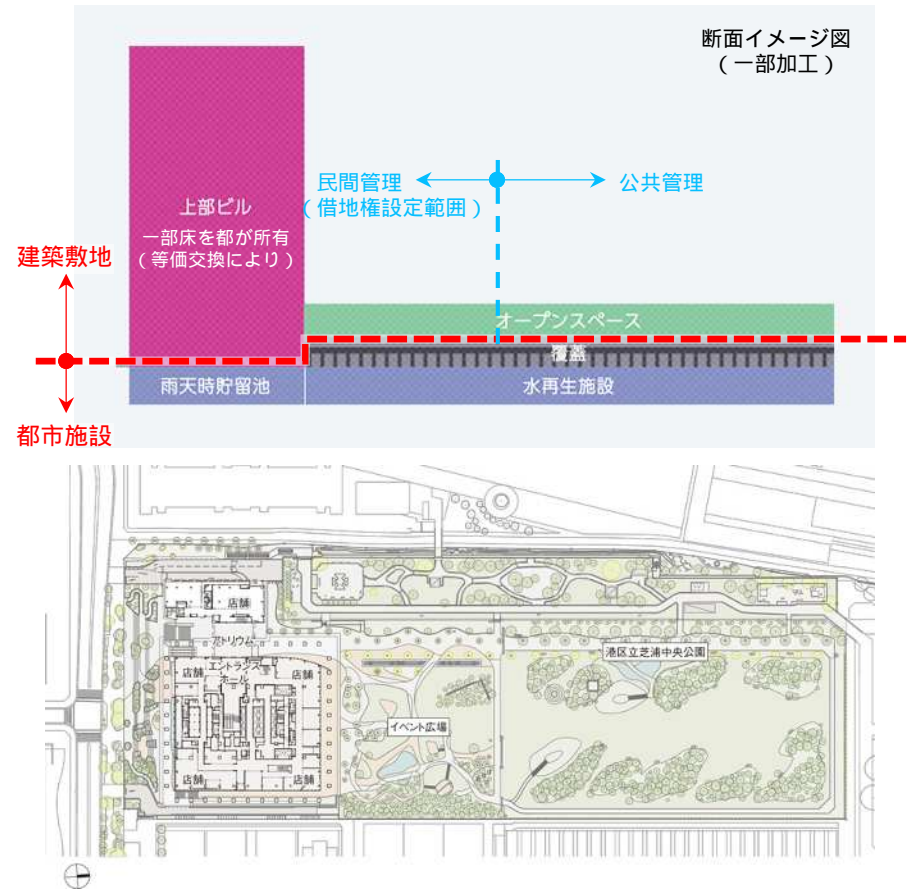
(8) 品川シーズンテラス

～下水道施設の上部を有効活用し民間開発を誘導～

- 概要：
 - 老朽化した芝浦水再生センター（下水道施設）のリニューアルとその広大な上部空間を有効利用した事業
 - 立体都市計画制度を活用し、上部空間を下水道施設以外（＝都市計画施設以外）以外の用途として活用可能にし、業務・商業ビル+公園・広場を実現
 - 定期借地権（30年）を設定し、開発事業者に賃貸することにより公的負担を縮減
 - 自然エネルギーや下水熱を活用した環境モデルビル
 - 品川シーズンテラスエリアマネジメントを組成し、水処理センター上部の広大な公園・広場を有効活用
- 所在地： 東京都港区港南1-2-70（JR・京浜急行品川駅 徒歩6分）
- 事業者： 東京都(下水道局) + 民間事業者4社

(以下建物概要)

- 竣工： 2015年2月（工期2012年2月～2015年2月）
- 階数： 地下1階 地上32階
- 構造： 地下：RC（免震構造） / 地上：S（柱CFT造）
- 面積： 敷地 49,547㎡ / 建築 9,128㎡ / 延床 206,025㎡
- 機能： 事務所、飲食店、物販店、集会場、診療所、駐車場、下水処理施設、緑地（約3.5ha）



図・写真の出展：NTT都市開発 HP

(9) DOKK1 (デンマーク オーフス市)

- 概要 :
 - ・現代にあった図書館の存在意義を再定義すべきという考えのもと、計画が進行。
 - ・地域を巻き込んだディスカッションやワークショップが繰り返され、コンペに参加する建設会社には少なくとも一つは子供たちのアイデアを建築に生かすことを義務付け。
 - ・公共サービス部分は図書館だけではなく、市民サービス（住民登録、運転免許、社会保険などサービスの申請などを扱う部門）が市役所からここに移転。
 - ・産学官民連携によるプロジェクトであったため、ステークホルダーとの対話と合意形成に13年を費やし、DOKK1完成までに要した年月は17年。
 - ・従来の図書館の機能に加えて、図書館は市民活動の場であるとして、市民・コミュニティ・教会・会社などと連携し、サービスを協創していくコミュニティ・センターの働き付加。
 - ・ICTに自動貸し出し機・返却機、スマートフォンに合わせたオンライン予約システムや、周辺地域にある18の図書館の蔵書のデータベース化。さらに、ロボット仕分けシステム、1000台収容の自動駐車システムも採用。
- 所在地 : デンマーク オーフス市
- 開館 : 2015年
- 面積 : 床面積 : 約60,000㎡
(内、図書館機能 : 17,500㎡、オフィス機能 : 10,500㎡、駐車場 : 32,000㎡)
- 蔵書数 : 約40万冊
- 賞 : Public Library of the Year (2016)



図・写真の出版 : DOKK1 HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマート経済】 【スマートモビリティ】 【スマートエッジ】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【イマネ】

(10) スマートシティ会津若松

- ・概要：ICTなどを活用して、地域産業の活性化を図りながら、安心して快適に生活できる「まちづくり」に取り組む事業の「総体」
- ・目的：産業振興を含めた「地域活力の向上」を図ること
「安心して快適に生活できるまちづくり」の推進
「まちを見える化」し、まちづくりに役立てること
- ・取組推進内容
 - ・健康・福祉：母子手帳の電子化
 - ・育成・誘致：ICT関連企業の誘致 / デジタル未来アート事業
 - ・教育：ICTを活用した学力向上
 - ・防災：電気自動車を災害時の非常用電源として活用
防災Wi-Fi整備によるネットワーク構築
防災拠点となる施設への太陽光発電および蓄電池の整備
 - ・環境：再生可能エネルギーの推進、バイオマス発電と連携した林業振興
使用電力の見える化と省エネの推進
電気自動車の活用及び充電設備の整備
 - ・交通：住民情報と地理情報システムを連動させたバス路線の最適化
 - ・行政：行政情報のオープンデータ化
 - ・市民サービス：テレビとICTを組み合わせた新しい情報提供の仕組みの構築
コンビニエンスストアやタブレット端末による住民票等の交付サービス
 - ・観光：まちなか観光Wi-Fiの整備による観光客の利便性向上
 - ・農業：センサーを活用した生産から流通までの品質管理など・・・

「スマートシティ会津若松」と「地方創生」の連携



図・写真の出展：スマートシティ会津若松 HP

(11) WISE Living Lab さんかくBASE(横浜市) ～次世代郊外まちづくり”の活動拠点～

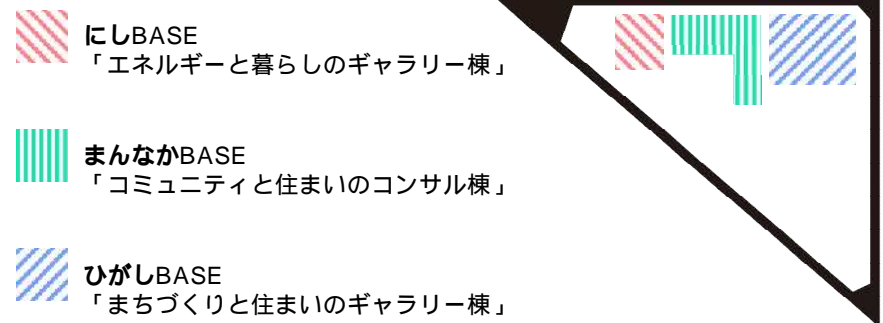
住民・行政・企業・大学が地域の課題を共有し、解決のためのアイデアを一緒に考え、具体化していくための共創の場。

- ・所在地： 横浜市青葉区美しが丘2-23-1,3(たまプラーザ地域)
- ・概要：
 - ・横浜市と東急電鉄は、2012年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、たまプラーザ駅北側地区をモデル地区として様々な取り組みを展開。
 - ・「次世代郊外まちづくり」の情報発信や活動拠点となる、「WISE Living Lab」を、2017年2月1日に全体開業に先行して「共創スペース」をオープン。
 - ・「共創スペース」は、地域住民、行政や企業がディスカッション、セミナーやワークショップを行うことができるオープンスペースとして、産・学・公・民の新しい連携の在り方によるイノベーションの創出や、地域住民の自発的なコミュニティの形成を促す取り組みを実施。
 - ・「WISE Living Lab」での活動を通じ、「次世代郊外まちづくり」が目指す、「産・学・公・民連携・協働」による、郊外における良好な住宅地とコミュニティの持続・再生」を実現。



「WISE Living Lab」(ワイズリビングラボ)は、「次世代郊外まちづくり」の情報発信や活動拠点として整備された施設。

本施設は「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの将来像「WISE City」(ワイズシティ)の体現に向けた機能が導入される3棟の建物から構成。



図・写真の展出：さんかくBASE HP

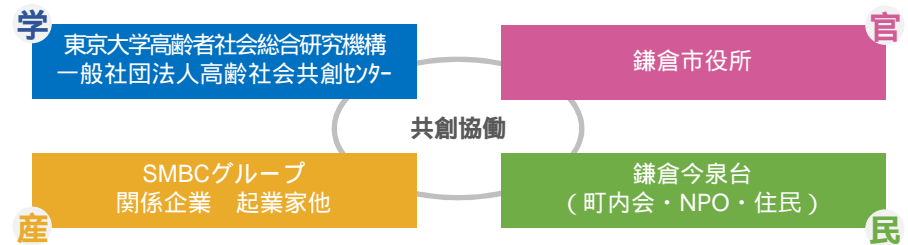
参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネルギー】 【スマートモビリティ】 【スマートエデュケーション】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【エリアネーミング】

(12) 鎌倉リビング・ラボ

「鎌倉リビング・ラボ」は、様々な主体が連携した本格的なリビング・ラボとしては国内でも極めて先進的な取組であり、ヨーロッパのリビング・ラボと連携した国際的な取組。

- ・所在地： 神奈川県鎌倉市今泉台4-4-3（いずみサロン）
- ・概要：
 - ・高齢社会を支える物・サービスづくりに関心のある企業(産)、東京大学(学)、鎌倉市(官)及び鎌倉今泉台の住民(民)の連携により、住民の暮らしを豊かにするための物・サービスを開発・改善する仕組みとして、2017年に鎌倉リビングラボを設立。
 - ・住民側として参加しているNPO法人が、鎌倉リビングラボにより得た収益を活動資金に充て、地域に貢献。
 - ・「産・学・官・民」の連携によるリビングラボの取組は、住民課題の解決とオープンイノベーションの両者に相乗効果をもたらす。
 - ・鎌倉市は2018年に「SDGs未来都市」に選定され、さらに、リビングラボを含む鎌倉市の取組が先導的な取組として「自治体SDGsモデル事業」として選定。
- ・特徴：
 - ・大学（東京大学、横浜国立大学）が鎌倉今泉台を研究対象としていることで、調査、課題抽出といった取組の土台となる部分が整理。
 - ・NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台は、鎌倉リビングラボのほか、空き家の実態調査（2012年より毎年6月に実施）、空き家・空き地の利活用、今泉台マルシェの開催等幅広くコミュニティ活動を実施。
- ・内容：
 - ・大学の研究費や企業の利用料を原資に、参加した住民には謝礼が支払われ、それとは別にNPO法人に対して事業委託費が支払われてる。これにより参加した住民には仕事としての意識が醸成され、NPO法人にはコミュニティビジネスとして自負が生まれる。
 - ・リビングラボの実施に当たっては、住民の生活に必要な物・サービスが開発される必要がある為、余計なバイアスが生じぬよう企業は匿名で参加。



文章・図・写真の出版：東京都住宅政策本部 HP



図・写真の出版：鎌倉市 HP



図・写真の出版：イトーキ プレスリリース

図・写真の出版：東京大学 HP

参考事例

キャンパスシティ : 【市民開放】 【産学官民連携】 【国際交流】 【成長牽引】
 スマートシティ : 【スマートエネルギー】 【スマートビルリテイ】 【スマートイジング】
 クロスオーバーシティ : 【学生+居住者+ワーカー+観光客】 【職住遊学】 【重層空間】 【リビングラボ】 【イリマネ】

(13) 信州リビング・ラボ ～市民・社会と共創するオープンイノベーション～

- ・所在地： 長野県
- ・仕組み：
 - ・信州大学、産業界、行政、市民の皆様と連携し、健康づくり・健康社会の構築を目指す取組。
 - ・皆様と一緒に健康増進につながる研究や商品開発、政策づくりを行いながら、必要な知識を学び、自らの健康づくりを推進。
- ・特徴：
 - ・長野県を主なフィールドとしてリビング・ラボを活用したプロジェクトの創造を進めるための構想。
 - ・「プラットフォーム」と「個別のプロジェクト」が特長。
- ・現在進行中プロジェクト



健康生活の達人教室

健康社会の構築を目指す取組み



ホワイトファイバー

健康食品として人気のもち麦の効果を研究中！！



防災・減災

災害に備え・災害を減らす取組み

プラットフォーム

リビング・ラボの取り組みを進める上では、多様な主体が繋がり、協働作業（アイデア創出・リサーチやプロトタイプの検証・ディスカッション）の「場」が必要。その場を「プラットフォーム（駅の乗降場やディスカッションの場などの意味）」と呼び、人々が自由に集まり、出入りし、一緒に考えることができる環境の構築を推進。

「健康生活」分野と「防災減災」分野の2分野を中心に取組む。

ネットワーク

特定の関係者だけで構成するクローズ型（あるいはセミクローズ型）ではなく、オープンネットワークとすることで、より広範囲な人々・多様な主体の巻き込みを狙う。県内各地に展開されるコワーキング・スペースを始め、フューチャー・センターやリビング・ラボの地域拠点と連携し、ネットワークを形成することでオープン・イノベーションを創出する「信州リビング・ラボ構想」を推進。



図・写真の出版：信州リビング・ラボ HP